

延年の舞

長島節五(日本映像民俗学の会)

制作者・著作権者：長島節五

制作年：2009年10月20日

上映時間：15分

円仁が嘉祥元年(848)唐から将来したと寺伝にあるが、同じ延年でも外の延年と見比べると異質である。その時代の為政者の意向に沿って、天下泰平、国土安穩、延年長寿の願いを叶えさせてもらうために、日光山一山の僧侶が相伝してきた舞を新任者が修することが定めになっている。新任の舞衆は、白い五条袈裟をかぶり、上衣は緋緞子地に牡丹と唐草の直垂をはおり、白の大口袴をはく、背中には鮫柄の刀を帯に挿むいでたちで、一山僧侶を従えて本尊の前で印を結び三方に舞を献じるが、その舞いの調子に合わすことなく声明は唱えられる。舞は足を踏み鳴らす所作が際立、そして手足は併行に動かすナンバである。鎮める所作、反閉、陰陽道の呪法、その意味を知ること出来なくなってしまった。かつては魔多羅神に奉ずる舞で、図像に二人の童子が描かれているように、往古は稚児によって舞われていたようだ。背中の刀は邪気を払う得物、そうしたいでたちで舞われる不思議な舞である。文書伝承等で所作の意味を推測することは難しいが、唐より将来したとの伝承があるように、今後東アジアの近隣諸国の民俗に同様なものがあれば比較検討の対照としたい。